

# かなだいせき 金田遺跡第3地点 現地説明会

(公財)北九州市芸術文化振興財団  
埋蔵文化財調査室 学芸員 安部和城

1. 時代：18世紀～19世紀（江戸時代後半～幕末～近代）

2. 調査期間 2019.05.27～07.29

### 3. 発掘調査の概要

金田遺跡第3地点は、昨年の8月から調査を行っており、今年の5月から追加調査を行っています。調査では、近世の道路遺構が良好な状態で確認されました。この道路遺構はこれまでの研究資料から「長崎街道」と考えられることが分かりました。現在、調査を行なっている第3地点および、小倉城、常盤橋、長崎街道推定ラインを第1図に、現在の金田遺跡の位置を第2図に、幕末の絵図との位置推定を第3図に示しています（追加調査部分のみ）。（今回の調査区の全景写真は資料の2枚目）

確認された道路遺構は、路面幅が約3.5m、付属する側溝幅約0.8m、深さ約0.6～0.8mを測り、砂利が丁寧に敷かれています（写真①）。調査では大きく2面の路面が確認されました（写真②）。昨年度の調査で確認された道路遺構を含めると総延長（消滅していた部分を含む）が約95mほどになります。今見えるのは第2面目の路面の状態です。この路面が道路設置時当初の路面と考えられます。

この道路遺構の周辺には建物跡や、巨大な瓦溜り土坑（185号土坑）が確認されています（写真③）。この瓦溜りからは大量の瓦が出土しており、小笠原家の三階菱紋を含む多種多様な軒平瓦が出土しています。

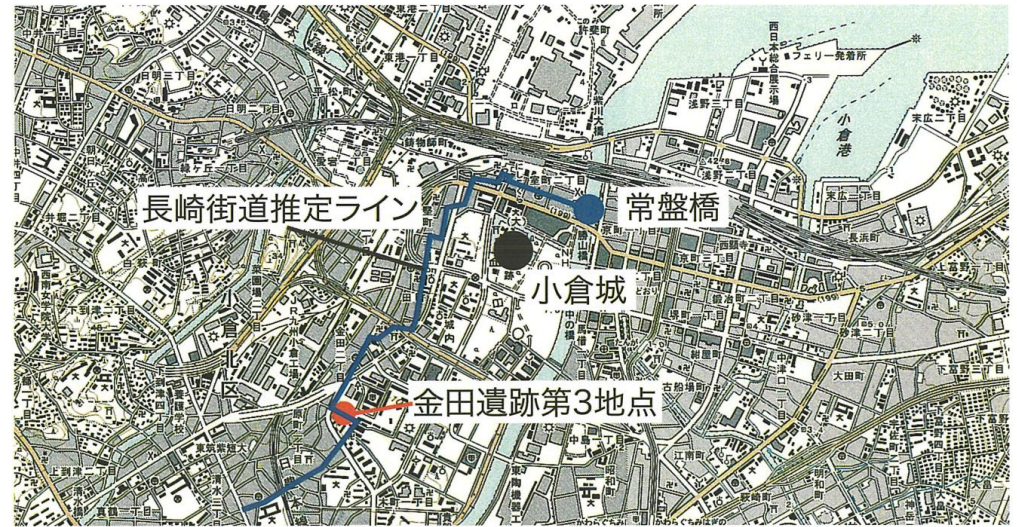
また、1-2区では路面の上に設置された石組み溝が確認されました（写真④）。道路上面の埋土からは近代の遺物が出土しており、石組み溝と合わせて道路の廃絶過程が伺えます。

昨年に引き続き、金田遺跡第3地点で確認された道路遺構は、路面や付属する側溝等から出土した陶磁器の年代から、18世紀後半～19世紀前半頃に設置されたものと考えられます。また、すでに調査を行った部分では、18世紀後半以前の道路や拡幅の痕跡等が確認されていないことから、今回確認された道路遺構はこの時期に「新設された道路」であり、近代に埋没・改変されたものと推定されます。

### 4. おわりに

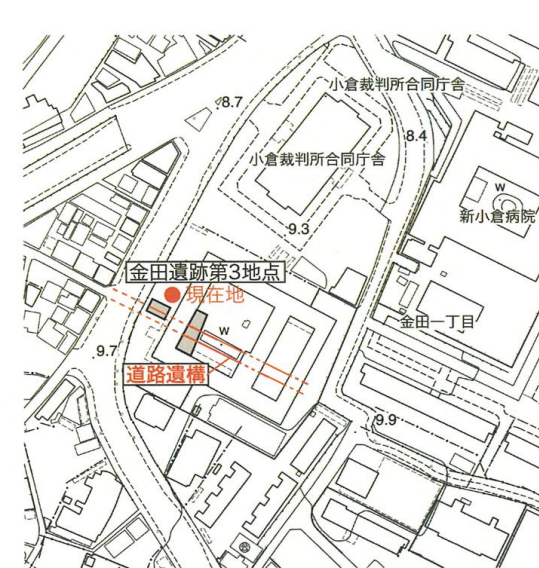
金田遺跡は、東方向に清水口門、北方向に到津口門が存在し、基本的には城外になります。今回確認された道路遺構は、これまで小倉城内で調査された道路遺構と同様の構造をしていることが分かり、周囲に御郡地武家屋敷や清水口門があることから城内の意識があったものと考えられます。

また、確認された道路は18世紀後半～19世紀前半頃に新しく作られたものと考えられることから、この年代以前の道路の所在や、街道ルート、城内・城下町・城外の道路の構造等、今回の調査を元に多くの問題点が浮かび上がり、近世小倉の交通や城下町の形成過程の一端を理解するにあたって、非常に重要な調査となりました。

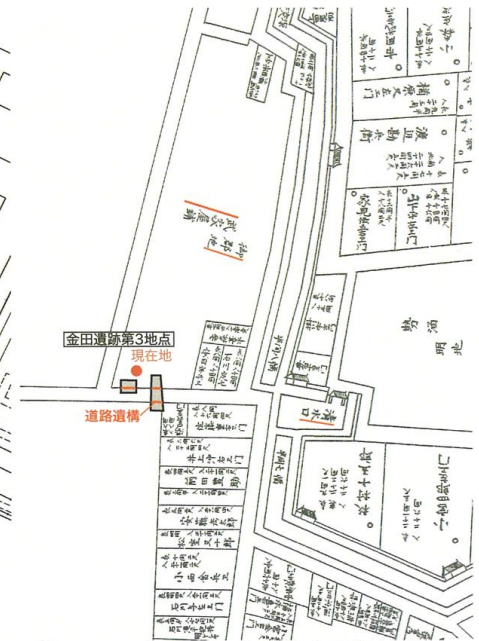


第1図 金田遺跡の位置と長崎街道推定ライン (1/25,000)

(街道推定ラインは福岡県文化財調査報告書第184集『長崎街道』を元に作成)

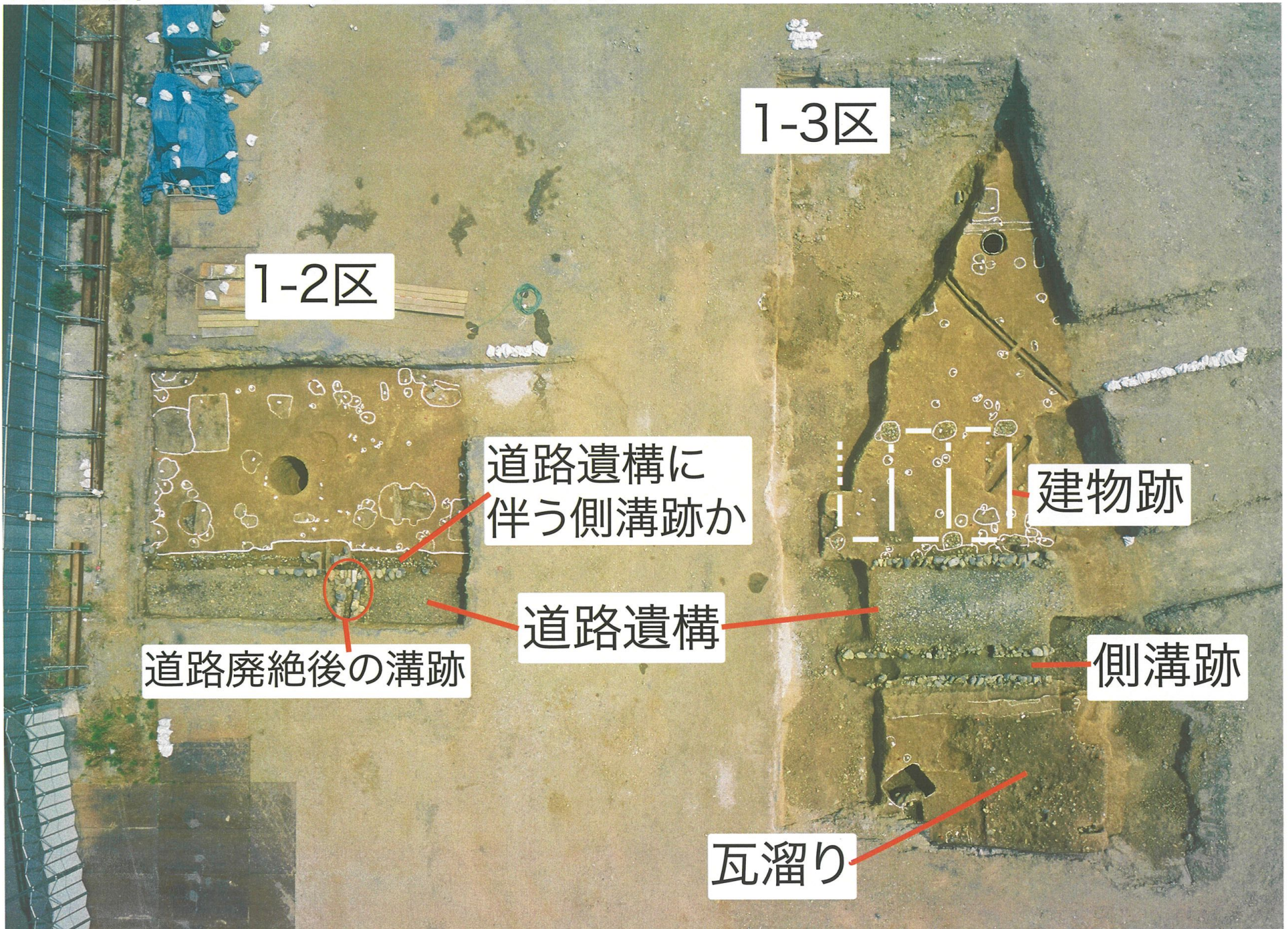


第2図 金田遺跡第3地点  
(追加調査地)の位置 (1/2,500)



第3図 幕末頃の小倉藩士屋敷絵図と  
金田遺跡第3地点の位置比較 (案)

※縮尺不統一





① 1-2区 道路遺構 丁寧に敷き詰められた砂利



② 1-3区 道路遺構 荒い第1路面 (上) と丁寧に敷かれた第2路面 (下)



③ 1-3区 大量の瓦が廃棄された185号土坑



④ 1-2区 道路遺構の廃絶後に設置された側溝